様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２５１９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１２４３３

研究課題名（和文）国内外からの国際会議参加者の参加動機を誘発する開催地選定基準に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Selection Criteria for Host Locations that Motivate Participation from Domestic and International Attendees

研究代表者
岩本　英和（Iwamoto, Hidekazu）

城西国際大学・観光学部・准教授

研究者番号：８０７４６７２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、新型コロナウィルスの影響により研究方針を転換し、MICE分野のリスクマネジメントと国際会議運営の新たな方向性を模索したものである。初年度は感染症への意識が高く、参加者の心理的回復に時間がかかることが判明した。次年度は、オンラインやハイブリッド型会議の参加者ニーズの差を分析し、時差や交流促進の難しさを明らかにした。3年目はハイブリッド型会議の経済波及効果と観光資源の期待を調査し、国外参加者の期待が高いことを示した。4年目は現地参加者増加とホスピタリティマインドの醸成がリピーター獲得に繋がることを明らかにした。この4年間で、持続可能な国際会議運営の基盤が構築された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、新型コロナウィルスの影響を受け、MICE分野における国際会議運営の新たな方向性を考察した。初年度は、リスクマネジメント認識度を分析し、参加者の心理的回復が時間を要することを明らかにした。次年度は、オンラインとハイブリッド型会議の参加者ニーズの差異を明らかにし、時差や交流の難しさを指摘した。3年目は、ハイブリッド型会議の経済波及効果を高めるため、観光資源への期待を調査した。4年目は、参加者の動向を分析し、ホスピタリティマインドの醸成がリピーター獲得に寄与することを示した。学術的・社会的意義として、国際会議運営において、感染症などのリスクに柔軟に対応するための一事例を示したと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study shifted its research focus due to the impact of the COVID-19 pandemic and explored new directions for risk management in international conference operations. In the first year, it was found that awareness of infectious diseases was high, and participants took time to psychologically recover. In the second year, the study analyzed the differences in needs between participants in online and hybrid conferences, highlighting the difficulties of time differences and promoting interaction online. The third year investigated the economic ripple effects of hybrid conferences and participants' expectations for tourism resources, revealing that expectations were higher among international participants. By the fourth year, it became clear that increasing on-site participants and fostering a hospitality mindset in the host city could lead to the acquisition of repeat attendees. Over these four years, a foundation for sustainable international conference management was established.

研究分野：観光学

キーワード：MICE　国際会議運営　コンベンション・ビジネス　参加者動機　ハイブリッド　リスクマネジメント

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

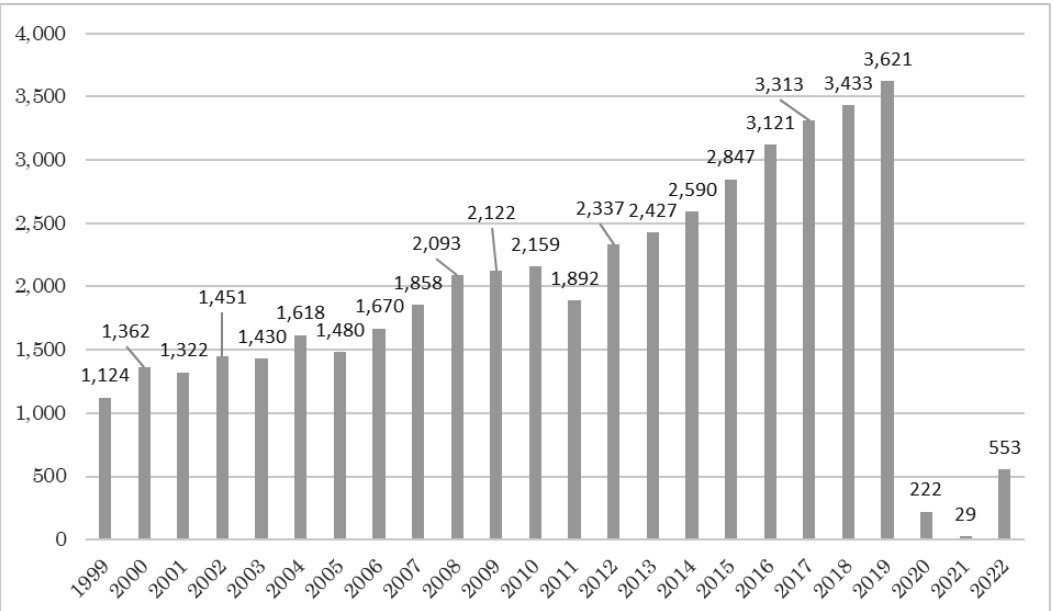
本研究の開始当初は、新型コロナウィルス感染症が流行し始めた年であり、科研費申請時に予定していた内容から研究方針を大きく転換せざるを得なかった。

新型コロナウィルス感染症の流行前の観光庁のデータによれば、2016 年の MICE 全体の総消費額は約 5,384 億円で、雇用創出効果は約 9,000 人分、税収効果は約 820 億円と推計されている。さらに、2018 年に観光立国推進閣僚会議で決定された「観光ビジョン実現プログラム 2018」でも、MICE は観光立国実現に向けた主要な柱の一つとして位置づけられていた。

これらの成果は、対面型の国際会議開催によるものである。しかし、新型コロナウィルス感染症の流行により、対面での国際会議開催が困難となった。そのため、初年度の国際会議の多くは国内外での開催実績が乏しいオンライン形式の開催を模索することとなった。

国際会議の参加者は滞在期間が長く、季節変動が少ないという一般的な観光とは異なる特性があり、これがインバウンド観光に寄与する強みであった。しかし、2020 年にはオンライン形式での国際会議が主流となり、円滑なオンライン会議運営に関する手法が提言される一方で、観光面での恩恵が少なく、経済波及効果も期待できないことは明らかであった。また、オンライン会議では参加者同士の対面交流がなく、時差の問題などから交流の機会が限られるという課題も浮上した。

図 日本における国際会議の開催実績数



出所：JNTO「国際会議統計」より筆者作成

2021 年以降は、徐々にハイブリッド型の国際会議が開催されるようになったが、海外からの参加者はまだ少なく、国内参加の実地参加と海外参加者のオンライン参加との運営手法を模索することとなった。

本研究では、実地開催を目指し、特に地方の主催地に経済波及効果をもたらすことを目的とした。そのため、ポストコロナ時代を見据え、実地での国際会議の新たな方向性を模索することに重点を置いた。こうした背景のもと、本研究は観光学の観点から、オンライン会議の課題を克服しつつ、実地開催による経済的および社会的効果を最大限に引き出すための戦略を探求した。

２．研究の目的

本研究の申請当初の目的は、国外の既存研究から国際会議誘致における諸要素を洗い出し、国内外主催者の開催地選定基準と参加者の参加動機の要因のギャップを分析し、日本が抱える国際会議誘致の課題を抽出し、③国内の国際会議誘致における改善指針の策定と提言を行うことであった。しかし、新型コロナウィルス感染症の流行により、「コロナ禍における MICE 分野のリスクマネジメントと国際会議運営の新たな方向性」を模索すすることとなった。

本研究では、新型コロナウィルス感染症の影響を受けた MICE 分野において、リスクマネジメントと国際会議運営の新たな方向性を考察した。主に考察した点は、次の 3 つの点である。

1. リスクマネジメントの現状分析と課題の特定

新型コロナウィルス感染症が MICE 分野に及ぼした影響を評価し、現行のリスクマネジメント手法の効果を検証する。これにより、現場でのリスク対応策の実態とその課題を明らかにする。

2. オンラインおよびハイブリッド型会議の運営手法の検討
　コロナ禍で急速に普及したオンラインおよびハイブリッド型会議の運営手法を詳細に分析し、これらの形式が持つ利点と課題を整理する。特に、時差や参加者間の交流促進に関する課題を解決するための具体的な方法を模索する。

3. 持続可能な国際会議運営の新たなモデルの提案：
　ポストコロナ時代を見据え、MICE 分野における持続可能な国際会議運営の新たなモデルを構築する。特に、主催地（特に地方）への経済波及効果を最大化するための施策や、参加者の満足度を高めるための方策を提言する。
　本研究は、パンデミックに対応した MICE 分野のリスクマネジメントおよび国際会議運営の提言を目指した。

３．研究の方法
　本研究の方法は、各年度に異なる内容のインタビュー調査やアンケート調査を実施し、新型コロナウィルス感染症の影響を受けた MICE 分野におけるリスクマネジメントおよび国際会議運営の新たな方向性を探った。
　初年度の研究では、まず MICE に関するリスクマネジメントの認識度合いを調査することから始めた。特に、感染症への意識が極めて高くなった状況下で、参加者の心理的回復にどれだけの時間がかかるかをデータ収集・分析した（岩本，2020；岩本・原・松尾，2020）。
　岩本・原・松尾（2020）は、海外旅行に際して懸念するリスクを明らかにするため、アンケート調査を実施した。新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の影響で国内旅行の需要が増加する一方で、外貨獲得の観点から東アジアからのインバウンド観光の早期回復が望まれている。アンケート調査では、国や地域によって旅行者のリスク認識が異なることが示された。そのため、インバウンド観光の回復には、安全・安心を取り入れたニューノーマルを主催地で浸透させ、訪日外国人旅行者に認知させることが重要である。また、各国・地域の特性に合わせた受け入れ環境の構築と多言語による情報発信が必要とされることが明らかとなった。
　次年度の研究では、新型コロナウィルスの影響が続く中、多くの国際会議がオンライン形式で実施されるようになったことを受け、オンラインおよびハイブリッド型会議の参加者ニーズに焦点を当てた。具体的には、オンライン会議と現地参加者とのニーズの差を明確にするための分析を行い、時差や交流促進の難しさといった課題を浮き彫りにした（岩本・松尾・杉山，2021）。
　3 年目の研究では、ハイブリッド型国際会議が主流となったことを踏まえ、現地参加者および主催地への経済波及効果を高めるために必要な要素として、参加者が期待する観光資源に関する調査を実施した。特に、国外からの参加者が日本人参加者よりも観光資源に対する期待が高いことが明らかとなり、観光資源の充実が国際会議の魅力向上に寄与することを示した（岩本・松尾，2022）。
　4 年目の研究では、ハイブリッド型国際会議における現地参加者の増加と国外からの参加者の限定的な状況を分析した。この結果、現地参加を促進するためには、単に国際会議を開催するだけでなく、開催地全体のホスピタリティマインドを醸成し、リピーターを引き起こすことが重要であることが明らかになった（岩本，2023）。
　以上のように、本研究では各年度に異なる視点からデータを収集し、分析することで、新型コロナウィルス感染症の影響を受けた MICE 分野における持続可能な国際会議運営のための新たな方向性を示した。

４．研究成果
　本研究では、当初の研究目的を達成するために研究期間を 1 年延長し、新型コロナウィルス感染症の終息を待った。しかし、期待するほどの回復には至らなかったため、最終的な成果は MICE 分野におけるリスクマネジメントおよび国際会議運営に関する議論に留まった。それにもかかわらず、この未曽有の状況がインバウンド観光に与える影響を実体験できたことは、今後の持続可能な国際会議運営において視野を広げる結果となった。
　観光業は外的圧力による影響を受けやすいと言われているが、コロナ前はリスクマネジメントに関する研究成果は限定的であった。新型コロナウィルス感染症の影響により、リスクが再認識され、多くの研究成果が発表されたことは、今後の持続可能なインバウンド観光、ひいては国際会議運営においてレジリエンス機能が強化されたことを示している。
　本研究では、まずリスクに関する意識度合いから調査を始め、参加者の心理的回復にかかる時間を明らかにした。新型コロナウィルスの影響が続く中で、多くの国際会議がオンライン形式で実施されるようになり、オンラインおよびハイブリッド型会議の参加者ニーズに焦点を当てた。オンライン会議と現地参加者とのニーズの差を明確にするための分析を行い、時差や交流促進の難しさといった課題を浮き彫りにした。
　2021 年にはハイブリッド型の国際会議が徐々に開催されるようになったが、国内ではオンラインを選択する参加者が多かった。この際、オンラインでの国際会議参加が現代における新しい形の国際会議であるとの主張が多く見られたが、実際のアンケート調査では、オンラインでの国際会議参加では対面型の国際会議が持つ優位性を十分に発揮できないことが明らかになった。

その後、ハイブリッド型の国際会議が主流となり、現地参加者の増加と国外からの参加者の限定的な状況を分析した。この結果、現地参加を促進するためには単に国際会議を開催するだけでなく、開催地全体のホスピタリティマインドを醸成し、リピーターを引き起こすことが重要であることが明らかになった。多くの参加者が実地参加できない事情がある場合はオンラインで参加するが、実地参加が可能な状況では実地参加を希望する参加者が増加することが明らかとなった。国際会議参加者は、自らの研究成果を発表し、研究者間の交流を目的としているが、参加者たちは、非日常感を味わいたいというニーズもあるため、主催地全体でのホスピタリティの提供は必要不可欠である。

今後、新型コロナウィルスのような感染症が再び流行した場合、本研究の成果が早期回復の一助となれば幸いである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 Hara Tadayuki、Iwamoto Hidekazu	４．巻 7
２．論文標題 Measuring the degree of people’s risk perception in event tourism	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Journal of Global Tourism Research	６．最初と最後の頁 47～51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.37020/jgtr.7.1_47	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Iwamoto Hidekazu, Matsuo Tokuro	４．巻 12
２．論文標題 Expectations of Convention Attendees toward the Tourism Resources at Their Destination	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Proceedings of 12th International Congress on Advanced Applied Informatics	６．最初と最後の頁 1～8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Hara, T., & Iwamoto., H	４．巻 6
２．論文標題 Analysis of Japanese Meeting Planners’ Profiles and Site Selection	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Journal of Global Tourism Research	６．最初と最後の頁 31-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.37020/jgtr.6.1_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Iwamoto, H., Matsuo, T., & Sugiyama, Y.	４．巻 10
２．論文標題 An analysis of preferences of convention attendees in the time of Covid-19 pandemic	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Proceedings of 10th International Congress on Advanced Applied Informatics	６．最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Iwamoto, H., Matsuo, T., Hosoda, T., & Maruyama, H.	4．巻 81
2．論文標題 Research on an international comparison of risk perception	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Proceedings of 11th International Congress on Advanced Applied Informatics	6．最初と最後の頁 429-438
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Iwamoto, H., Matsuo, T., Sugiyama, Y.	4．巻 9
2．論文標題 Examining the importance of networking, venue, and tourism resources in international convention	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Proceedings of 9th International Congress on Advanced Applied Informatics,	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岩本英和・原忠之・松尾徳朗	4．巻 35
2．論文標題 旅行者が懸念する「リスク」に関する一考察	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集	6．最初と最後の頁 117-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岩本英和	4．巻 29
2．論文標題 イベント参加におけるリスク要因認識の国際比較：中国人と台湾人を事例に	5．発行年 2021年
3．雑誌名 城西国際大学紀要	6．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　4件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 Hidekazu Iwamoto
2．発表標題 Sustainable practices for convention business in the post-Covid-19
3．学会等名 2nd International Symposium on Applied Informatics Innovation（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Hidekazu Iwamoto
2．発表標題 New directions and challenges of hospitality quality in convention industry
3．学会等名 1st International Forum on Smart Systems and Service Management（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Iwamoto, H.
2．発表標題 Current situation, issues and challenges of convention business in the time of Covid-19 pandemic
3．学会等名 International Symposium on Applied Informatics Innovations（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Iwamoto, H.
2．発表標題 Convention site selection criteria during Covid-19
3．学会等名 AIIT / DCS-BINUS International Symposium On Decision Science And Consensus Formation（招待講演）
4．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	松尾　徳朗 (Matsuo Tokuro) (80433142)	東京都立産業技術大学院大学・産業技術研究科・教授 (22605)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
第8回 国際観光コンベンションシンポジウム	2021年～2021年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関